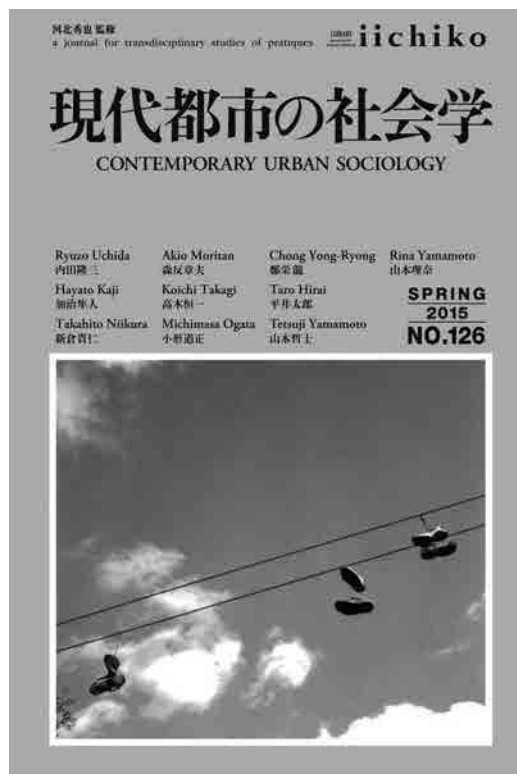


# 『現代都市の社会学』

LIBRARY ICHIKO 126 SPRING 2015 4月30日 発売予定



A5 変形 128頁 定価(本体 1,500円+税)

【監修・アートディレクター】  
河北秀也 (かわきた ひでや)  
1947年生まれ。日本ベリエールアートセンター主宰。  
著書に『デザイン原論』など。  
本誌プロデューサー、アート・ディレクター。

【編集・ディレクター】  
山本哲士 (やまもと てつじ)  
1948年生まれ。信州大学教授をへて現在東京芸大客員教授。  
政治社会学、ホスピタリティ環境学。  
主な著書に、『ミシェル・フーコーの思考体系』、『ホスピタリティ講義』、『国つ神論』、『くもの日本心性』ほか多数。

今回の特集企画は、「東京」という名の都市の現状について、具体的かつ多角的に議論してみたいという問題意識に端を発しています。21世紀に入り「都市再生」の掛け声とともに、東京都の人口は急速に増えていきました。日本の人口減少が問題化されるなか、人々が「東京」へ吸い寄せられたわけですが、この動的な社会過程で「東京」と呼ばれる都市は一体どんな現実を孕み、また、その現実が地方の現実や国土全体の現実とどんな関係で結ばれているのか？—そんな疑問がこの特集を動機づけています。

ある時期から、「東京」はひとつの総体として捉えることが難しく、むしろ種々の断片を通して寓論的にしか語りえない何かであり続けています。「東京」を切り取る寓論的な断片があればこれ恣意的に浮上しますが、総体としての「東京」はいよいよ知りがたく経験しがたいものとなっています。20世紀末以降のアニメ・漫画・小説などに「東京」はどれほど廃墟の形象を投影したことでしょう。それらの物語言説は「東京」の死を物理的にイメージしましたが、このイメージの地下には「東京」の捉え難さが観念として横たわっていたのかもしれない。

今日、「東京」への集中・集積といった趨勢はどうも新たな次元に到達しはじめており、それは「東京」の位置や意味や機能の変化と同時に、「東京」が抱える矛盾や空洞の特異な状況を示唆しているように思います。今回の特集が、これらの問題を深く考える糸口になればまさに幸いです。(特集企画：内田隆三)

▼座談会：内田隆三／森反章夫／鄭栄龍／山本理奈「都市東京の問題系—コモンズと消費社会を焦点にして」  
▼山本理奈「都市の高齢化と居住福祉をめぐる課題—東京都における高齢単独世帯の増加を焦点として」  
▼加治隼人「限界集落の修辞学」  
▼高木恒一「都市政策のなかの住宅問題—東京都における住宅政策の変遷」  
▼平井太郎「『人口』をめぐる問題系の現在」  
▼新倉貴仁「都市とスポーツ—皇居ランの生・政治」  
▼小形道正「着物文化と都市の現在—レンタルと複製技術の詩学」  
▼カラー特集「モネの庭園とジベルニーの場所設計」 山本哲士

「LIBRARY ICHIKO」は季刊誌です。次号は二〇一五年七月末発行予定

## 文化科学高等研究院出版局

TEL 03(3580)7784 FAX 03(5730)6084  
Email: ehesc@gol.com ehescbook.com

ご注文は「RCC」へ ↓ Fax. 03-3294-2177

文化科学高等研究院出版局 TEL.03-3580-7784 FAX.03-5730-6084

### 現代都市の社会学

LIBRARY ICHIKO 126 SPRING 2015 1500円(税別)

ISBN 978-4-938710-93-4 C1010 ¥1500円

書店名

部数